

2015年度大学に新学部誕生！

常に時代の 一歩先を行く 跡見学園

2015年4月、跡見学園女子大学に「観光コミュニティ学部」が新設されます（設置認可申請中）。これからの日本にとってますます重要性を増す、「観光」と「コミュニティ」の領域で活躍できる女性を育てる新学部。なにを学び、どんな分野に進出できるのかご紹介いたします。

**新しい観光と
コミュニティを
デザインする女性の
育成をめざします**



跡見学園女子大学副学長
大塚 博

がふさわしいか、さまざまな案が出される中で浮上してきたのが、観光とコミュニティを柱とした学部だったのです。

常に社会の動きを見据え、次代に求められる学問分野はなにか探求していくことは、大学に課せられた大きな使命です。跡見学園女子大学も、2010年に文学部現代文化表現学科、マネジメント学部観光マネジメント学科を立ち上げた後も、引き続き大学の将来構想について検討を重ねてきました。

その過程で生まれたのが、文学部・マネジメント学部につながる第3の学部を設置するという計画でした。そして、大学の教育力をより高め、それを社会に発信していくためにはどんな学部

観光を柱のひとつとしたのは、先に開設した観光マネジメント学科が受験生の人気も高く、意欲的な学生が数多く入学していることから、これをさらに強化していこうという狙いがありました。コミュニティをもう一方の柱としたのは、東日本大震災以来、地域というものに対する考え方が大きく変わったこと、本学がキャンパスを置く文京区や新座市をはじめ、さまざまな地域との連携に力を入れるようになっていくことなどから、地域というものの研究に本腰を入れて取り組むべきだと考えたからです。

跡見学園の歩み

明治

1875 (明治 8)年 跡見学校開校

跡見学園の歴史は
ここから始まりました!



1888 (明治 21)年 柳町校舎落成式ならびに祝賀式挙行

1909 (明治 42)年 創立 35 周年記念ならびに
花躰古希祝賀会

大正

1913 (大正 2)年 財団法人跡見女学校となる

1925 (大正 14)年 開校 50 年式典挙行

大正期にすでに
開校 50 年!

昭和

1933 (昭和 8)年 校舎を大塚に移転

1944 (昭和 19)年 跡見女学校を廃し、
跡見高等女学校となる

1946 (昭和 21)年 跡見高等女学校専攻科設置

1947 (昭和 22)年 跡見学園中学部設置

1948 (昭和 23)年 跡見学園高等学校設置

1949 (昭和 24)年 跡見学園高等学校専攻科設置

1950 (昭和 25)年 跡見学園短期大学設置

跡見学園中学部を
跡見学園中学校へ名称変更

1951 (昭和 26)年 学校法人跡見学園となる

1965 (昭和 40)年 創立 90 周年記念事業として

跡見学園女子大学を設置

1975 (昭和 50)年 学園創立 100 年記念式典挙行



創立 100 年!

平成

1990 (平成 2)年 跡見花蹊生誕 150 年記念祝賀会

1995 (平成 7)年 跡見学園短期大学を

跡見学園女子大学短期大学部に
名称変更

2002 (平成 14)年 跡見学園女子大学に

マネジメント学部を新設

マネジメント学部は、国内で最初の
ライフデザイン系の学部として誕生!

2005 (平成 17)年 跡見学園女子大学大学院を設置

2007 (平成 19)年 跡見学園女子大学短期大学部を閉学

2015 (平成 27)年 跡見学園女子大学に新学部

「観光コミュニティ学部
観光デザイン学科、
コミュニティデザイン学科」を開設予定
(設置認可申請中)

学園創立 140 周年、大学開学 50 周年



来年度、跡見学園は
再び新しい歴史を刻みます!

大学開学当時 (現新座市) の
キャンパス風景はコチラ!

座学プラス実践で 確かな知識と実践力を 身につけます

このような経緯で 2015 年度、「観光コミュニティ学部」を立ち上げるに至ったわけですが、地域ではなく、なぜ「コミュニティ」と名づけたのかといえ、この学部が扱うコミュニティとは、都道府県や市町村などの自治体だけでなく、人が集まるすべての場をコミュニティと捉えようと考えたからです。さらに、観光デザイン学科、コミュニティデザイン学科と学科名に「デザイン」を冠したのは、これからの観光やコミュニティの在り方を「企画・提言・立案する」人材を育成するという意味合いが込められているからです。

2 学科のうち、観光デザイン学科では新しい観光コンテンツ(資源)を発見し、それを具体化して内外に向けて発信できる観光デザイナーの育成をめざします。一方、コミュニティデザイン学科は、地域の活性化のために、さまざまな立場にある地域

住民の声をよく聞き、それらをまとめて方向性を定め、プロジェクトを進行していくファシリテーター^{※1}や、コミュニティデザイナー^{※2}を育てることを目標とします。2 学科とも、「座学プラス実践」を教育方針とし、講義を通して理論をしっかり学び、ともに、実際の現場で体験を積むことで、生きた知識を養うことを重視します。

観光もコミュニティも、女性ならではのしなやかな感性や柔軟な目線、斬新な発想がいかせる領域であり、より多くの女性の進出が求められています。この学部で学んだ女性たちの多くが観光デザイナー、コミュニティデザイナーとして活躍できるのが理想ですが、たとえばそれ以外の分野に進んだとしても、あるいは家庭人となったとしても、学部で身につけたファシリテーション(調整・支援)能力、ホスピタリティ(おもてなし)の心は必ず役に立つと自負しています。

※1 ファシリテーター II 中立的な立場で、専門的に活動を支援する人物のこと。
※2 コミュニティデザイナー II 人がつながる仕組みをデザインする人物のこと。